



TITLE:

パレト氏を憶ふ

AUTHOR(S):

松岡, 孝兒

CITATION:

松岡, 孝兒. パレト氏を憶ふ. 經濟論叢 1924, 18(6): 1160-1163

ISSUE DATE:

1924-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128169>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 十 八 卷 第 六 號

大正三十三年六月一日發行

論 叢

道德統計論概説……………法學博士 財部 靜治

租税の公平と利益團體の組織……………法學博士 神戸 正雄

フォン・ウイゼの社會學論……………文學博士 米田 庄太郎

海運同盟に對する英吉利の態度……………法學士 小島 昌太郎

時 論

移植民獎勵問題と世の謬見……………法學博士 山本 美越乃

說 苑

スミスの學說に關して福田博士の教を乞ふ……………經濟學士 谷口 吉彦

マルクスの勞賃論……………經濟學士 森 耕二郎

雜 錄

貨幣廢止論……………經濟學士 中西 仁三

パレト氏を憶ふ……………經濟學士 松岡 孝兒

農業生産の機械化と經營規模……………法學博士 河田 嗣郎

附 錄

本誌第十八卷總目錄……………

コノミイ・ポリティック誌¹⁾によりて傳へられたが、更にジオルナーレ・デリ・エコノミステイ誌²⁾は特にパレト記念號を發刊し彼が成した業績をば或は祖述し或は批評してゐる、惟ふに、羅甸經濟學界は近年漸く落莫の感なき能はざりしが、今また更に此の巨星の地に隕つるのに接せしことは誠に痛惜に堪へざるところである。

彼れは一八四八年七月十五日に巴里で生れた。一八四八年といふと丁度彼の二月革命といふ一投石によつて惹き起された巴里市民の熱狂的一波が、更に萬波を呼んで其影響は遠く全歐洲に及んだ年である。彼れの家即ちパレト家はジエノアの名門である。そして其家からは代々幾多の高材逸足を出した、ところが彼れの父ラファエレ・パレトの代に至り、彼の革命家マッジニ Mazzini を助けたといふことから、遂に國王カルロ・アルベルト Carlo Alberto の追ふところとなり、二十四歳にして早くも故國を去つて巴里に來り一技師として身を立て、其後、マリー・メテニエー Marie Mettenier という佛蘭西婦人

パレト氏を憶ふ

松岡孝兒

一
 曩に、經濟學及び社會學の耆宿ヴィルフレド・パレト Vilfredo Pareto 氏の訃は、ルヴェー・デ

1) Revue d'économie politique No. 5. 37e Année, p. 712.

2) Giornale degli economisti e rivista di statistica N. 1-2. Anno XXXV. Vol. LXV.

と婚し、かくて擧げたのが即ちヴィルフレド・パ
レト氏である。當時父は三十六歳、母は三十二
歳であつた。

彼れは、其の幼年時代を巴里で送つたが、後、
父が其の才能を認められて本國に召還せらるゝ
に及び父に従つてトリノ Torino に行き、そ
で Istituto tecnico に入り、更に Università, Pol-
itecnico を卒業した、其の laurea の論文は「固體
の弾力性理論に關する基本的原理及び其の平均
を決定する微分方程式の積分に關する研究」と
題する五十三頁より成るものであつた。卒業の
際、彼れは首席であつたが、彼れの家は其當時
有福ではなかつたので、大學講師 (dozent) の交
渉を斷つて鐵道技師となつた。ところが、彼れ
はこの鐵道技師の生活からある銀行と關係を生
するに至つたが、この事により更に其の銀行の
管理して居る製鐵工場の經營に當るやうにな
り、かくて彼れは次第々々に經濟學上の諸問題
に入りこむに至つた。彼れがフイレンツェ Firen-
ze に居つた頃、アダムスミス協會を組織して、

當時獨逸講壇社會主義の影響を受けて行つた伊
太利政府の鐵道國營、鐵道賃率に關する改正が
保護的色彩濃厚なるの故を以て、猛烈に之に反
對した事は、特に朝野の耳目を惹けるものであ
つた。

一八九一年に至り、彼れは技師の職を抛ち專
ら經濟及び社會問題の研究に没頭するに至つた
が、彼れがワルラス Walras 教授の經濟學講座の
後繼者として瑞西ローザンヌ Lausanne 大學の
招聘を受けたのは丁度此の頃である。かくて一
八九三年に員外教授 Professeur extraordinaire
に、翌年正教授 Professeur ordinaire に任せられ、
後更に經濟學の外に社會學の講義をも擔當し
た。彼れは、其の間政々として後進の誘掖に努
め、後年心臟病のため講壇を退き病をレマン
Leman 湖畔セリニー Celigny に養ふに至つても
依然渝ることなかつたが、遂に一九二三年八月
十九日セリニーのアンゴラ別邸に於て永眠せら
れた。行年數へ年で七十六歳である。アモロ
ゾ Amoroze、ボルガッタ Borgatto、バローネ

1) Principii fondamentali della teoria della elasticità dei corpi solidi e ricerche sulla integrazione delle equazioni differenziali che ne definiscono l'equilibrio.

Barone 氏等は、パレト門下の逸足といはれてゐる。

二

彼れは、初め、其の筆を執るや頗る多方面であり、其の載するところも亦伊佛英獨の各雜誌に及んだが、後には問題も經濟に關するものが多くなり、而かも其の多くはシオルナーレ・デリ・エコノミスティ誌上に發表せられた。そして其の勞作も一八九三年に Karl Marx を出して以來、逐次 Cours d'économie politique, Les systèmes socialistes, manuel d'économie politique 等の名著あらはれ、更に、一九二一年には Trans formation della democrazia を公にした、尙此外レオン・セイ及シャイエイベル Léon Say et Chailey-Bert の經濟學辭典や Bibliothèque universelle などにも執筆し、其の一生を通算する時は實に百數十篇の多きに及んでゐる。晩年には新聞殊にレスト・デル・カルリノ Resto del Carlino 紙上に盛んに筆を執つた。因に、彼れはファシスチ團の一員であり、ムッソリニ Mussolini

氏の德憑によつて軍備縮少委員會にも活動した。彼れは社會學の方面に於ても造詣深く、Traité de sociologie générale を始め多くの勞作があつて斯界に重きを成して居る。

以上述べし如く、彼れは、其の二十年といふ長い實業生活に於てあらゆる實際上の經濟問題に關する經驗をば嘗め來り、然る後、ローザンヌに入りて其の理論經濟學を成すに至つたのであつて、まことにリカアド Ricardo が十三年の商人生活の經驗から抽象して彼れの經濟學理論を打ちたて、殊に其の純粹抽象方法が世人をして異常の注意を喚起せしめたと、相似たる所が少くない。學説と環境、此等二者の相關的關係の好適例として、歴史は長く彼のリカアドに於けるが如く吾がパレトに就いて語るであらう。彼れはまたクールノー Cournot、ワルラス Walras、デニヴォンス Jevons、エッヂウオース Edgeworth、フィッシャー Fisher 等と共に數學的研究方法を經濟學に應用するの方面を開拓し、所謂數理經濟學派と呼ばれる人達の最も有力な

る代表者であるが、其の數學に對する態度は全く一の研究方法として之を用ひたるに止る、唯、彼れは前にも一言せる通り、徹頭徹尾實際的具體的傾向及び哲學的傾向を脱せんとして、只管に、抽象的客觀的立場に立て籠つたため、勢ひ數理的研究方法によるを便とする場合を多からしめ、此事は惹いて遂に彼をして一部の誤解を招くに至らしめたものであらう。這般の事情は彼れの *Cours d'économie politique* を繙くもの、劈頭に於て最も明かに觀取し得るところである。彼れが數學以外の研究方法の價值を十分認めてゐたことは勿論である。

寔に、十九世紀が生んだ此の優れたる經濟學者、社會學者に關しては尙ほ述ぶべきことが多くあるが、しかし要するに、其の死は、それぞれの意味に於て、其の生れし國、其の成育せし國、其活動せし國々にとりて一大損失であるばかりでなく、また更に彼れが幾多の權威ある研究を献げし經濟學界社會學界にとりて償ふべからざる損失である。

三

前に叙べた如く、彼れの著すところは頗る多い。茲には唯其の最も主要なるもののみを擧ぐるに止める。其の詳細は載せてシオルナー・デリ・エコンノミスティ誌卷末にある。就いて参照せられむことを望む。

- 1) Introduction à Le Capital de Marx ; extraits faits par M. Paul Lafargue, Paris.
- 2) La courbe des revenus, Lausanne, 1896.
- 3) Cours d'économie politique, Lausanne, Tome I. 1896, Tome II. 1897.
- 4) Les systèmes socialistes, Paris, 1903.
- 5) Manuale d'economia politica, Milano, 1906.
- 6) Manuel d'économie politique, Paris, 1909, (traduzione del Manuale, riveduta ed ampliata nell' appendice matematica).
- 7) Le mythe vertueuse et la littérature immorale, Paris, 1911.
- 8) Il mito virtutista e la letteratura immorale, Roma, 1914. (edizione italiana con aggiunte).
- 9) Trattato di sociologia generale, Firenze, 1916.
- 10) Tratté de sociologie générale, Lausanne, 1914.
- 11) Fatti e teorie, Firenze, 1920.
- 12) Trasformazione della democrazia, 1921.

1) Moret, Jacques—Vilfredo Pareto, *Revue d'écon. pol.* No. 5. 37 e Année, p. 718.
 2) Pareto, Vilfredo—*Cours d'économie politique*, p. 2.